地域・保護者に支えられ 育んでいく心・体・学力

名和小学校

はじめに

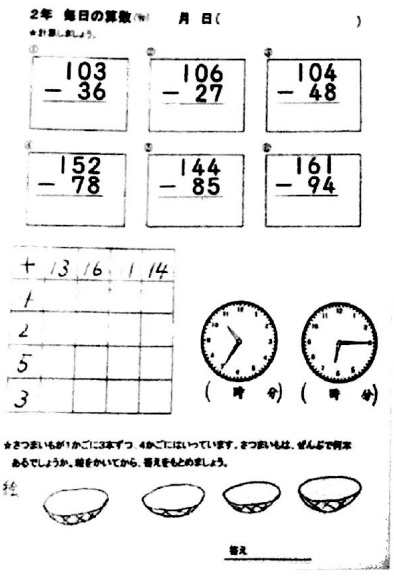
学校は子どもたちの健やかな心と体を育むとともに、学力をつけるという大きな役割を担っています。本校では十一年間にわたり、算数科を中心に「意欲をもって学び続ける子どもをめざして」を研究テーマに掲げ取り組んでいます。ささやかで地道な取り組みではありますが、紹介させていただきます。

一　基礎学力定着への取り組み

学力をつけるための第一歩は、「聴く力」をつけることだと考えています。目を向けて話を聴く、最後まで話を聴くなど聴き方のルールを全クラスに掲示し、できていない時は掲示物に目を向けさせ、どのルールが守れていないのか気づかせていきます。また、話の内容にうなずきや表情で反応することを促し、それができた時は黒板の隅に「反応〇」などと書き加え「聴き方」を繰り返し指導しています。

二つ目の取り組みは「個別指導」です。その日の授業で理解が不十分な子どもたちを、休み時間の一部、給食と昼休みの合間の時間など隙間の時間を使って指導しています。放課後にゆっくり時間が取れれば良いのですが、会議や出張でままならない時もあり、時には家庭の力もお借りして取り組んでいます。

三つ目の取り組みは、手作り宿題プリント「毎日の算数」です。通称「毎算」と呼んでいるこのプリントには既習事項を含めて、計算問題、文章問題などが出題されています。子どもたちは、今学習していることは理解できても、既習事項はどうしても忘れてしまいがちになります。それを定着させるために、毎日は無理でも週に何日かは宿題に出すよう全校をあげて取り組んでいます。


2年　毎日の算数(9)　月　日(　)

★計算しましょう。

① 103 − 36　② 106 − 27　③ 104 − 48

④ 152 − 78　⑤ 144 − 85　⑥ 161 − 94

+	13	16	1	14
1				
2				
5				
3				

(　時　分)　(　時　分)

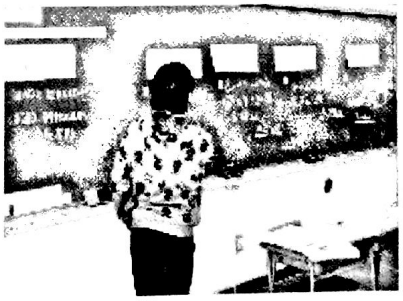
★さつまいもが1かごに3本ずつ、4かごにはいっています。さつまいもは、ぜんぶで何本あるでしょうか。絵をかいてから、答えをもとめましょう。

式

答え

二　子どもたちの「?」から始まる授業の組み立て

授業を組み立てる際には、まず教師が「めあて」を明確に理解していなければならないことは言うまでもありません。その上で、この授業の「まちがい所」はどこなのか、子どもたちはどこで「あれ?」と思うのか、考えていきます。実際授業をしてみると、子どもたちが思わぬ所で「?」を出してくれることもあります。そういう時は子どもたちの本質を見抜く目に感動したり、自らの教材研究の甘さを反省したりします。



授業はできるだけ子どもたちから出された「?」を中心に展開していきたいと考えています。例えば四年生ではわり算の筆算に初めて取り組みます。塾などでやり方を知っている子は黒板ですらすらと解くことができます。しかし、なぜそのやり方でできるのかを友だちに問われると、ほとんどの子どもは答えることができません。そこで、実際に具体物を分けてみると、初めて筆算を習った別の子どもが「わかった!」と叫び声をあげました。そこで具体物の操作と筆算の式を結びつけながら、「たてる